

教育目標

心豊かにたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成

目指す子ども像

- いろいろなことに興味や関心をもち夢中になって遊び込む子ども
- 自ら考え、前向きに行動する子ども
- 自分の思いを十分に出し、相手の気持ちに気づける子ども
- 粘り強く、最後までやり遂げようとする子ども

目指す教職員像

- ・子ども一人一人の命を守り切るために行動する教職員
- ・子どもや保護者の願いに正面から向き合う教職員
- ・日々自己研鑽し、見通しをもって仕事に向かう教職員
- ・高め合い、相談し支え合える、チームで高まる教職員
- ・働き方改革を意識し、生き生きと働く教職員

目指す幼稚園像

- ・子どもに自信と自立心を育むため、家庭や地域、近隣の幼保小と連携や協働、小学校との接続を推進する幼稚園
- ・地域の子育て支援センターとしての役割を推進する幼稚園

経営方針

- ・子どもが主体的に遊ぶ園づくりを進め、安全・安心な環境づくりを絶えず見直し、改善を図る。
- ・子どもが夢中になって遊び込み、自分の力を發揮し、友達と関わる楽しさや協働する喜びを感じるための教員の援助や環境構成を行う。
- ・少人数の園だからこそできる保育を考えると共に、異年齢の取組を増やすことで自律性（折り合う心）を育む保育を実践する。
- ・保育の専門性を高め、子どもの育ちを保障していくために、園内研修を充実する。
- ・架け橋期プログラムの趣旨の理解に努め、近隣の幼保小との連携、接続を推進する。できる施設とは交流を深め、教員の相互理解に努める。小学校期の学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む。
- ・地域の児童館や地域諸団体との連携を図り、未就園児教育相談をはじめ地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。
- ・保護者、地域に向けて活動を発信し、乾隆幼稚園の取組について理解を得るように努力する。また学校運営委員会での関係者評価を活用し、教育活動の改善を図る。
- ・教職員一人一人が自分の職務に矜持をもち、生き生きと働く職場づくりを考える。特に働き方改革について自分事として考える風土づくりを行う。また教職員自身の健康保持、増進が根本であるという認識と SDGs の「誰一人取り残さない」という理念を職場全体に浸透させる。

具体的な取組…丁寧に粘り強く取り組む。（研究・研修）絶えず見直す。（評価）

- ・家庭との連携
- ・地域との連携
- ・保小中との連携（特に乾隆小学校との連携、接続）
- ・学校運営協議会
- ・未就園児の子育て支援事業「さくらんぼ組」
- ・園庭開放 等々

研究主題 夢中になって遊び込む子どもの育成を目指すために
～つながりが生まれる環境や援助に着目して～